道徳教育通信

道徳実践資料　No.
平成　年　月　日

学年の縦のつながりを意識しよう

学習指導要領には低学年14項目，中学年18項目，高学年22項目，中学校22項目（新学習指導要領では，低学年が15項目，中学校が23項目）の道徳の内容が示されています。道徳の時間は，年間３５時間なので，重点事項ではない場合，年間に１回だけしか扱わない内容項目もあるわけです。それで，子どもの変容が期待できるかという疑問もあるかもしれません。しかし，考えてみると１回だけでも６年間の小学校生活で６回の授業があるわけで，中学校まで考えるとかなりの数になります。その中で，子どもは徐々に望ましい変容を遂げていくのだと思います。ですから，道徳の時間の一時間一時間を大切にしていく必要があるのと同時に，道徳の時間の内容を学年の縦のつながりの中で見ていく視点をもつ必要があります。

視点２の「主として他の人とのかかわりに関すること」の中の(1)，いわゆる「礼儀」の内容について縦のつながりを考えてみたいと思います。学習指導要領の内容は，次のようになっています。

低学年 ⇒ 気持ちのよいあいさつ，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接する。
中学年 ⇒ 礼儀の大切さを知り，だれに対しても真心をもって接する。
高学年 ⇒ 時と場をわきまえて，礼儀正しく真心を持って接する。
中学校 ⇒ 礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動ができるようにする。

では，実際の道徳の授業は，どのように展開されていくのでしょうか。東京書籍の資料を参考にすると「礼儀」の授業は次のように展開されていきます。

学年	資料名	資料の内容	主な発問
小学１年	あいさつ	一年生のごく普通の一日におけるあいさつについて。	あいさつをするとき大切なことはなんですか。
小学２年	できなかったあいさつ	来客があった場合，ちゃんとしたあいさつが案外できていないことに気づかせる。	あいさつをすることは，どうして大切なのでしょうか。
小学３年	フィンガーボウル	宴会の席でフィンガーボウルの水を誤って飲んでしまった外国の来客に対する，女王様の真心から学ぶ。	女王様はどんな考えからフィンガーボウルの水を飲んだのでしょう。
小学４年	小さな心づかいで	２つのエピソードから礼儀作法の必要性に気づかせる。	「わたし」はあいさつについてどんなことを考えましたか。
小学５年	人の輪を広げるあいさつ	ひろ子は登校途中に定期入れを拾い，落とそうとした女の人に渡そうとするが，その人はあいさつもしないでいってしまう。	あいさつをすることで人の輪が広がるのはなぜだと思いますか。
小学６年	相手のことを考えて	家族４人でおすし屋さんで食事をする約束だったが，お父さんが約束の時間を大幅におくれる。	「親しき中にも礼儀あり」とはどんなことでしょう。
中学１年	一枚のはがき	お世話になりながら礼の便りを出さず後悔する。	おじさんのはがきを見て，作者はどんなことを感じ取っただろうか。
中学２年	ひとことの力	不用意な言葉遣いや態度は，相手の人格も傷つけてしまう。	「言葉が豊かな人間関係をつくっていくための素晴らしい道具だ」とはどんなことか。
中学３年	ごあいさつのすすめ	「あいさつは潤滑油である」と述べ，あいさつの大切さを強調している。	「ひとつのことを終わらせるためのあいさつ」とは，どういうあいさつをいうのか。

道徳教育通信

道徳実践資料　No.
平成　年　月　日

詩を使って授業をしよう

詩は，作者の思いや願いが選び抜かれた短い言葉でリズム感をもって表現されています。感受性の強い時期にある子どもたちに強く訴えるものがあります。この詩を国語の時間だけでなく，道徳の時間の資料として使ってみましょう。

つもった雪
金子みすゞ

上の雪
さむかろな。
つめたい月がさしていて。

下の雪
重かろな。
何百人ものせていて。

中の雪
さみしかろな。
空も地面も見えないで。

（金子みすゞ童謡集より）

あたりまえ
井村和清

あたりまえ
こんなすばらしいことを、みんなはよろこばないのでしょう
あたりまえであることを
お父さんがいる
お母さんがいる
手が二本あって、足が二本ある
行きたいところへ自分で歩いてゆける
手をのばせばなんでもとれる
音がきこえて声がでる
こんなしあわせはあるでしょうか
しかし、だれもそれをよろこばない
あたりまえだ、と笑ってすます
食事が食べられる
夜になってちゃんと眠れ、そして又朝がくる
空気をむねいっぱいにすえる
笑える、泣ける、叫ぶこともできる
走りまわれる
みんなあたりまえのこと
こんなすばらしいことを、みんなは決してよろこばない
そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ
なぜでしょう
あたりまえ（「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」より）

一つのごみ
赤井真由美

昨日、橋を渡っていた。
ポケットに一つのゴミがある。
軽いけど、このままいれておくのもしゃくだ。
私はそう思って、ゴミを川にすてようとした。
手をはなそうとして、
〃いけない〃と思い、
ポケットにガサッとゴミを入れた。
前に川そうじをしたところだ。
ゴミを川にすてることで、おこっていた私なのに…。
こういう気持ちでついすててしまうのだろう。
私は、はずかしくなった。
人の心ってせまいなあと思って、家につっ走って帰った。

（「子供に学ぶ日々」より）

⑶　道徳教育通信の効果的活用の見通し

学校においては，このような道徳教育通信の発行の意義を認めながらも，定期的に発行していくのには厳しい現状にある。

そこで，先に示した道徳教育通信の試案をもとにすれば，各学校の実態に応じて編集，発行が容易に行われると考える。

試案は，発行日，発行番号などを記入するだけで，すぐに印刷が可能である。また，フロッピーにも登録しているので加除，修正がしやすい。

発行者は，校長，教頭が自ら発行する場合と研修主任や道徳主任に適切な指導助言をしながら，発行を指示する場合が考えられる。その際に，本研究で作成した「道徳教育通信」の試案が活用できる。

発行に際しては，発行時期や発行日を工夫する必要がある。それによって，週指導計画を作成する場合に次の道徳授業の参考にしたり，道徳教育通信に書かれていることを話題にして教師間で話し合ったりする姿が期待できるであろう。

5　研究のまとめ

本研究によって明らかにされた教師がかかえている道徳教育に関する問題点は，校長や教頭が道徳教育に関してどのような指導助言を行っていけばよいか考える資料となるであろう。

また，作成した「道徳教育通信」の試案を実際に活用することによって，各学校の道徳教育に関する研修が日常的に行われることが期待できる。

さらに，校内の道徳授業研究を合わせて行うことによって，道徳に関する研修が一層充実し，教師の道徳教育に対する意欲を高めることにつながると思われる。

今後は，実際に学校で「道徳教育通信」の試案を活用して研修を進めてもらい，その効果を分析し，「道徳教育通信」の内容をよりよいものに改善していきたい。

また，発行人，発行日，発行期間などによって，「道徳教育通信」の効果にどのような違いがあるか調べていきたい。